

活動案	マルチレベルクラス活動案 母語混合クラス
	<p>都内の日本語教室で、レベルの違う3人の子どもを受け持ったときの活動案（例）です。</p> <p>宅配ピザ屋さんごっこをすることで、カタカナ、買い物の会話、数字、自分の家の電話番号が言えることを学習目標としました。</p> <p>練習の後、携帯電話（携帯電話ショップから使えない電話を100円で購入）を使って、顔が見えないように会話をし、もう一度練習。</p> <p>その後、カタカナの50音表を復習しましたが、かなり熱心に勉強し、自律的な学習に結びつきました。</p>

教材：宅配ピザの広告

学習目標：カタカナの導入、復習、数字、電話をかける、注文する

学年：小2、小4、中2

母語：中国語、フィリピン語、英語

学習者について

児童A：ひらがなが終わった来日後1ヶ月の小2の英語を母語とする女の子。会話は積極的（通級前）に行える。

目標：今日はカタカナで書くことばがあることがわかり、数字を読み、注文ごっこを楽しむ。「～を一つ、お願いします」が言える。

児童B：ひらがな、カタカナの読み書きができる中国語を母語とする小4の男の子。会話は苦手だが書くのは得意。

目標：読みは得意だが、特殊音の発音は苦手なので、ディクテーションで聞き取りをチェックする。相手とのやり取りを楽しむ。電話番号が聞き取れる。

生徒C：来日2ヶ月、ひらがなカタカナの読み書きができ、通級中。クラスメイトの話も出てくるようになった中学2年生の男子生徒。

目標：電話でピザの注文を受け、カタカナで書き留める。「わかりました」

指導案

カタカナの導入と復習：50音表を順番にみんなで読む。Tが読み、Ssが復唱。

順不同にTが指す。Sが言う。Sが先生役をして指す。

児童Aは、適当に言ったり、「わからない」と言ったりする。他の二人がサポートする。

Tはほめたり、発音の修正をしたりする。

ピザの広告にあるピザの名前を読む。

自分の好きなピザの名前を言えるようになったら、ロールプレイをさせる。

レベルに応じて、注文するだけの役割、注文を受けて会話をする場合、注文を受けて書き留める役割、書き留めたピザの名前を読み上げる役割（ピザを作る係り）。

最後にTがピザの名前を読み上げ、書き取り。（カタカナを習っていない子どもはひらがなで）

時間があれば、Sが読み上げ、他のSが書き取り

宅配ピザの広告

S：ピザ！

T：ピザを指しながら、「これは、ピザです。」「何のピザですか？」「どのピザが好きですか？」

児童A：指差しながら「これ！」

T：何というピザかな？

生徒C：「ぺ、ぱ、ろ、に」

児童B：「ペパロニ」

児童A：「ペパロニ」

T：これは、ペパロニピザ です。

Ss：ペパロニピザ

生徒C：僕、これ、好き。えーと、「ミートスープリーム」

Ss ミートスープリーム

T（発音修正）

生徒C：これ、先生の？どこの？

T：品川区の宅配ピザ屋さん。名前は、えーと（わざとわからない振り）

児童B：び、ぎ、ら…

T：そうそう、ピザーラ、ピ ザ ー ラ

Ss：ピザーラ

S：知ってる～

モデルロールプレイ (Tのみの後、Tと生徒C)

「もしもし」

「はい、ピザーラです」

客：「ミートスプリームを一つ、お願いします」

店員：「はい、ミートスプリーム...」

客：「いくらですか？」

店員：「(ピザの広告を見て) 1600円です」

レベルによって、「すみません、もう一度お願いします」「はい、お名前は?」「電話番号をお願いします」「住所をお願いします」「サイズは?」などが自発的にでてきた。

日本語レベルの低い児童1が店員役をしたときは、生徒Cが自発的にサポートをしてくれた。

まとめの時間